

優秀賞

美しい水を未来へ

水のある生活を、ありがたいと思ったことはあるだろうか。水を飲み、洗い物をし、お風呂に入る。これは皆さんにとっての当たり前ではないだろうか。

私も、少し前までは水のある生活を当たり前のことだと思っただけで生活をしてきた。しかし私の住む地域を台風が襲い、水道局がその被害に遭った結果、水は水道からでなくなつたのだ。幸いにも、我が家には井戸があり、お風呂や洗い物の水などには困らなかつたが、井戸のない友人の話では、洗い物の水を繰り返し使つたり、お風呂に入れないため銭湯に行つたりと、大変な苦勞をしていたそうだ。この水のない生活がいつまで続くのか、皆先の見えない状況に立たされ不安を抱えていた。二週間程で水道局が復旧し、水道から水がでるように。このような体

験をし私は水に興味を持ち始めた。

そして調べていくうちに、地球ではおよそ六億六三〇〇万人の人が水不足に陥っていることが分かつた。そしてそのような地では子供が学校に通えなかつたり、汚水を飲み毎日八〇〇もの命が失われていたりしているという現状を知り、なんとかしなくてはならない、と考えた。そのため、まず水不足の「原因」を調べた。

一つ目は「人口の増加、産業の発展」である。人口の増加に伴い水の使用量も同じく増加。また生活に必要な水が増えた結果、生活排水や工場排水が多く流出し、限りある水資源の汚染につながつてしまつているのだ。

二つ目は「気候変動」だ。使用可能な水は、降水量の変動などに左右されるため、とても不安定であ

いわき市立大野中学校

三年

大和田 おわだ

陽奈 ひな

る。更に、地球温暖化がこの不安定さに拍車をかけているのだ。降水量だけでなく、雨の強さや頻度も温暖化により大きく左右させられる。そして雨だけでなく、気温上昇による積雪の減少などにより、春夏の水源地をも減らしているのだ。

最後に三つ目、それは「水源が守られていない」ということだ。都市化により水田が消失したり、森林伐採をしたことよって水の蓄積をしていた森も減少したりと、水源が破壊されている。また、一つ目で紹介したように、生活排水、工場排水により本来は使えるはずだった水を汚染していつている。日本のように浄水処理が備わっていない世界の地域も多く、そのような場所では一度汚染された水はそのまま汚染水として使用する他なくなってしまうのだ。

そして次に「対策」だ。

まず水の使用量を減らす、つまり節水を心がけるとのことだ。洗濯、食器洗い、お風呂、料理などで使う水を最低限に抑えて使おうと意識したことはあるだろうか。流しっぱなしにはしない、食器洗いの際は水をためて使うなどといったことができる。

更に、お風呂の水を入浴のたびに使い捨てるのではなく、もう一度沸かして入ったり、花の水やりに使ったりといった、たくさんの工夫をすることが可能だ。

次に水源を守る、生活排水の汚れを減らすことだ。洗い物の汚れを流す前に新聞紙か何かで拭き取る、油などをそのまま流さない、といったこと。また、シャンプーを使いすぎないようにしたり、環境負担物質の少ないものを選んだりするなどといった工夫ができる。

たったそれだけのことでは変わるわけがない、と思う人も多くいると思う。確かに、一人がやっただけではどうにもならないのかもしれない。しかし、多くの人がこの小さなことを続けていけばきっと、水不足の解消に繋がる、私はそう思うのだ。そして何より、気候変動も、水源が守られていないのも、すべて人間が作り出した原因であるというのに、その人間である私たちがこの状況を変えていかないと誰が変えるというのだ。変えられるか、ではない。変えていかなければならないのだ。